

頑張る高校生 高知商業高ジビエ部 第17回全国「商い甲子園」大会 初優勝「岩崎弥太郎賞」受賞について

8月24日(土)に高知県安芸市にある、安芸本町商店街で第17回全国「商い甲子園」大会が開催され、三重県や愛媛県、地元高知の高校生が開発商品の販売を競い合いました。この大会で、高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部(以下、ジビエ部)が最優秀賞にあたる「岩崎弥太郎賞」を受賞しました。4回目の出場で初めての受賞となりました。



優勝メンバー7人

一貫したテーマと取組が高評価

高知県の野生鳥獣被害の深刻さと狩猟で捕獲された鳥獣(ジビエ)の資源利活用の可能性を知った高知商業高校生がジビエ部を立ち上げて7年目となります。この間、「高知の陸の豊かさを守る」ことを目的に、高知県内で捕獲されたシカやイノシシを利活用・商品化・販売を行い、得られた利益でシカの食害を受けた森林保護活動を支援するという活動を続けてきました。今回の大会では、発足以来変わらぬテーマで目的達成のために手段を変えながらも一貫して「ジビエ」に取り組んできたことが高く評価されました。今後もこの目的のもと、あらゆる可能性と手段によって、ジビエ利活用とその普及、森林保護活動を継続します。

高知市街路市での販売活動で販売経験を積む

ジビエ部は高知市追手筋で日曜日に開催されている街路市「土佐の日曜日」に定期的に出店しています。観光客が7~8割ほどを占めるお城下の市で販売経験を積み、商売のむつかしさやたのしさを日々学んでいます。また、外国人観光客やマーケティング関連の方々に声を掛けられ、商品説明および販売をすることもよくあります。ジビエ部員は、学校で身に付けた英語や簿記、マーケティングなどの知識技能をこのように実社会で活用しています。これらの販売活動やお客様、地元や県外の業者の方々とのやり取りを通じて、豊富な販売経験を積むことができました。結果として、接客態度や商品陳列などで高評価を得ました。



日曜日での販売風景

高知市卸売市場活性化に向けた出店と市場の魅力発信

2024年のジビエ部は「ジビエ部の存在を最大限に生かした地域貢献」とテーマを設定、昨年度開発したペットフード事業に加え、高知市卸売市場(弘化台)の活性化にも取り組んでいます。高齢化などで空き店舗が増える市場内のブースで、土曜日にジビエ商品の販売を行い、集客アップに努めています。今回の「商い甲子園」の大会テーマは「再発見」でした。ジビエ部は「ジビエの魅力再発見」とともに「市場の魅力再発見」を掲げ、市場内の仲卸業者さんから仕入れた玉ねぎを大会販売中に1袋200円で詰め放題にしました。この北海道北見市産の玉ねぎは、かつてジビエ部が北海道の高校と共同でジビエ弁当を開発した際に使用したのと同じ産地でした。用意した100kgの玉ねぎは、開始から40分で完売となりました。少しでも市場の魅力を社会に広めることができたと同時に、仲卸業など商業の仕組みも知ることができる貴重な機会となりました。



高知市卸売市場での販売風景

今までの活動に対するお礼

ジビエ部3年生は、この全国「商い甲子園」大会を最後に引退となります。この間、市場活性化の取組以外に、ジビエ子ども食堂開催など多くの取組を経験させていただき、ジビエ部員が大きく成長する足掛かりを作っていただきました。ジビエ部の活動をご支援くださったみなさまに、改めて感謝申し上げます。また、今後も「陸の豊かさを守る」ために、ジビエ部は変わり続け、挑戦し続けてまいりますので、引き続き温かいご支援をいただければと思います。本当にありがとうございました。